

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 熊野町立熊野第一小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒731-4214

広島県安芸郡熊野町中溝四丁目4番1号

E-mail kuma01es@piano.ocn.ne.jp

Website http://www15.ocn.ne.jp/~kuma01es/

幼児児童生徒数 男子 307名 女子 268名 合計 575名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校のある熊野町は、昔から筆産業で栄えた町であり、現在まで180年あまり続いている。近年は書筆のみならず、画筆や化粧筆の人気も高い。

当校は、「筆づくりの伝統と文化を継承した体験的学習の充実」をESD実践活動のテーマに掲げ、郷土熊野に誇りをもち、グローバルな感覚をもった児童を育成するとともに、地域と協働して平和な地域社会づくりに貢献できる児童を育成することをねらいとしている。

学校教育目標「成長の実感」の実現のためには、ふるさとの伝統と文化を尊重し、自らの夢の実現に向けて努力を続ける子どもが育つ学校の創造が必要不可欠である。

ESDの基本的な考え方の中では、特に「世界遺産や地域の文化財等に関する学習」「防災学習」「国際理解学習」に重点をおき、カリキュラム編成を行った。また、昨年度より、「学びの変革」パイロット校事業の指定を受け、主体的な学びにつながる授業改善にも取り組んできた。

ここでは、地域の学習材を生かした「総合的な学習の時間」における取組を紹介する。

①【熊野のじまんを紹介しよう】（第3学年）

- ・ 熊野町の特産品や伝統、文化などを学び、「熊野はすごい！」ポイントに照らして伝えることを選び、表現していく。
 - ・ 取材したことをもとに、誰にどんな方法で伝えるのかを考え、熊野町内に発信していく。
- ESDで重視する能力・態度<伝達, 協力, 参加>

②【熊野筆調査隊】（第4学年）

- ・ 全国的に有名な熊野筆について調べ、郷土の伝統工芸士を招聘して実際に筆作り体験をする。
 - ・ 郷土熊野に伝わる「筆踊り」の指導を受け、運動会において自分たちの祭りとして表現する方法を工夫する。
 - ・ 熊野筆の未来について考え、調べたことを校内の他学年や地域に発信する。
- ESDで重視する能力・態度<参加, 協力, 伝達, 未来>

③【伝えよう 命の守り方】（第5学年）

- ・ コースに分かれて、熊野町内の危険な箇所を調べる。
 - ・ 自分の避難経路を調べたり地域の方のお話を聞いたりして、防災の知識を増やす。
 - ・ 調べたことをハザードマップにまとめ、発信していく。
- ESDで重視する能力・態度<伝達, 未来, 協力>

④【ヒロシマ人として・国際人として】（第6学年）

- ・ 日本独特の楽器である和太鼓で、児童の思いを表現する活動を取り入れる。
 - ・ 学習発表会において、学校独自の和太鼓組曲「筆が舞う」を披露する。
 - ・ JICAを見学したり、世界の国々の課題について調べたりすることで、郷土熊野と比べたり、自分の生き方を見つめ直し国際社会の中で自分たちにできることを考えたりする。
- ESDで重視する能力・態度<未来, 多面, 協力, 伝達>



②の写真（キャプション）



④の写真（キャプション）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- 熊野町の歴史, 特産品, 筆等に関するウェブサイト
- 「筆祭り」パンフレット
- 「熊野史」
- 地域の方の講話
- 熊野町のハザードマップ
- 世界各国に関するウェブサイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD とは、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近に取り組んでいくことで、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し持続可能な社会を創造していくことを目指す学習である。そのことを全教職員で周知し、「総合的な学習の時間」のシラバスに ESD の視点を位置づけている。

学習内容には、持続可能な社会づくりの構成概念を、学習のねらいには、重視する能力・態度を明記し、児童に付けたい力を学年ごとに具体的に表している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「学びの変革」パイロット校として、「課題発見・解決学習」を適宜取り入れる研修や授業改善を、常に行ってきた。

「総合的な学習の時間」の各単元における取組、付けたい力、関連図を各学年で作成し、全体研修により共有し合った。関連図については掲示し、交流を図りやすい環境をつくった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内研修において「課題発見・解決学習」の具体的な取組内容や成果・課題を各学年から出し合い、常に次年度へ向けてのブラッシュアップを図ってきた。

成果としては、児童の興味・関心をひく単元設定ができ、意欲的に調べ学習や伝達学習を進めることができた。課題としては、学習のまとめとなる発表や伝達のスキルが弱いところである。他教科とも関連させながら、深めていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校からの発信については、今後計画的に行っていく。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

熊野町教育委員会、社会福祉協議会、熊野町商工会議所、太鼓本舗かぶら屋、地域の太鼓指導者、伝統工芸士(筆作り)、熊野町女性会(筆踊り)、彼岸船保存会等、地域の方々との交流をさかんに行った。
活動中には、コミュニケーションの技をみがき、活動後は感謝の気持ちを手紙等で表すことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今後、推進していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクール、ESDに関する校内研修を進めてきたことで、教員の意識を高めてきた。児童の将来的な成長を視点として、各教科等の指導計画を推進することができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

来年度は、児童に付けたい資質・能力をより具体的に提示し、教員間で交流し合い実践していく。